

平成 27 年度 広島県生物多様性普及員 人材育成講座（自然再生編）第 4 回講座終了

1 第 4 回講座は、大人だけの観察会を実施

前日の夜から雨が降り、開催が危ぶまれた平成 27 年 9 月 13 日（日）に第 4 回講座を開催し、受講生 12 名が出席しました。また、会場である広島市佐東公民館（広島市安佐南区）の黒岩専門員、広島県自然環境課の神川課長も参加し、総勢 14 名の講座となりました。今回は、受講生による・受講生のための「大人だけの観察会」と題して、佐東公民館近辺を流れる古川の生き物観察を行いました。



オリエンテーションで、主催者を代表して（株）無垢～ムーク～の道原さんにあいさつをいただき、簡単なタイムスケジュールを説明した後、環境カウンセラーの奥山さんから道具の使い方や生物採取の方法、川での活動の注意事項について学びました。「網は生物を追いかけるのではなく、追い込むようにして使うこと」「下流側に網を置き、上流側にある石をはぐってきれいに洗うこと」「草むらや砂では足を有効に使うこと」などのポイントや、「膝より深いところには入らない」「川の中で走らない」「必ず履物を履く（裸足で入らない）」という注意事項に、受講生は真剣に耳を傾けていました。

川での活動の準備を行い、いざ、古川へ！！ バケツや網を手に、全員が徒歩で古川へ出発しました。

2 グループごとに生物を採集・観察



川に到着すると、さっそく生物採集にとりかかりました。グループごとに思い思いの場所で網を使って生き物を採ります。「貝が多いね」「小さい魚が捕れた！」「これはなんじゃろう？」など、童心に帰って夢中で生物を採集する参加者が続出です。そんな姿を見て、公園を利用していた親子や網を



持った子どもが不思議そうな顔をして近寄ってきました。怪しい大人の集団に見えたのでしょうか、最初は「何をしているのか？」と質問をされていました。バケツの中に入っている生物を見て「こんなものがいたの？」ととても驚いていました。予定していた時刻になったため集合しようとしたのですが、あまりにも夢中になっている受講生の姿を見て、採集時間の延長を決定！ 15 分延長をして約 40 分の採集時間を堪能しました。



川から上がり公民館に帰ると、次は採集した生物の観察です。仲間分けを行い、どういう生き物なのかをテキストを使って調べ、31種類の生き物について奥山さんから解説していただきました。観察した生物は以下の表のとおりです。

前回（第3回講座・8/9）の霧ヶ谷湿原で行った観察会で見られた生き物と同じ種類も見られましたが、場所が違えば種類が異なり、初めて見る生き物も多く観察できました。



また、水生生物による水質判定法に基づいて水質判定を行い、9月13日時点での古川の水質は『少し汚い水（水質階級Ⅱ：アユがすめる水質）』であることがわかりました。お腹がすいたことにも気づかないほど熱中して観察を行い、気がつけば12時を大幅に回り13時前に観察を終了しました。

水生昆虫		魚
指標生物	ナミウズムシ、ナガレトビケラ類、カワニナ類、ゲンジボタル、ヒラタドロムシ類、シマイシビル、ミズムシ、サカマキガイ	メダカ、カワムツ、ムギツク、オイカワ、ドンコ、カワヨシノボリ、トウヨ
ヤゴ	コヤマトンボ、オオヤマトンボ、シオカラトンボ、ギンヤンマ、ハグロトンボ、オナガサナエ	シノボリ、カマツカ、ギギ、スジシマドジョウ
トビケラ	ニンギョウトビケラ、ウルマーシマトビケラ	ウ、ナマズ
その他	ガガンボ、タイワンシジミ、スジエビ、モノアラガイ	



3 第1回～3回講座をふりかえる

昼食・休憩後は、環境カウンセラーの奥山さんの進行で、これまで実施した第1回～3回講座のふりかえりを行いました。

まずは個人で「印象に残っていること」「初めて知ったこと」など、第1回～3回の講座で得たこと・感じたことなどを3つ挙げ、ポストイットに書き出しました。過去の配布資料を見たり、眉間にしわを寄せて記憶を手繰り寄せながらキーワードを書き出します。「知らない生き物がたくさん」「水と自然と人との関わり」「生物多様性の金銭価値をどうはかるか」「体験は覚えている」「雨の日はこわい」など、さまざまな意見が出てきました。



これらの意見を、奥山さんが「生物多様性の3つの多様性」「生態系サービス」「生物多様性の危機」

「伝え方」というキーワードで整理しました。すると、全ての意見が第1回～3回の講座で取り扱ってきた「3つの多様性」「生態系サービス」「伝え方」というキーワードに見事に分類されました。体験や講座を通じて、受講生の皆さんそれぞれに本講座で学んでほしいこと・習得してほしいことが伝わっていることが確認できました。最後に残った



「生物多様性の危機」については、今後の講座で取り扱う予定です。

受講生からは、「各々の意見を見比べ分類することにより、自分たちが何について学んでいるのが明確になった」「他の参加者の意見と自分の意見が同じことが多かった」「他の人がどのように考えているかを知ることができ、今の講座の目標のどの段階にいるのか、今後何を学ぶのかを知る機会となった」といった意見があり、このワークを通じてこれまでのまとめと次回以降の講座に向けた動機づけができたようでした。

4 ふりかえり

ワーク後、次回が最後の実践型観察会実習ということで、どのような視点で観察会に臨むのかという確認を行いました。何を学ぶか、何から学ぶか、自分たちはどのような役割があるのかを再確認し、次回に向けた準備を行いました。

最後に、ふりかえりシートを使って今日 1 日のふりかえりを行いました。生物観察では「種類の多さに驚いた」「時間が足りなかった」「川によって生物の種類が違っていることがわかった」「川の中に入ってまでの観察は初めて。『川の中にこそ多様性有り』、このわかりやすさを上手に伝えることが大切だ」などの感想が聞かれました。

恒例となった「漢字 1 文字による感想」では、「爽」「楽」「鯰」「魚」「殖」「和」「探」「理」「慣」「森」「時」「伝」「驚」などさまざま、それぞれに得るもの・考えるものがあったようでした。

今回は、最後の「実践型観察会③」です。観察会は生物多様性の入口的な存在で、興味を持ってもらうアクティビティでもあります。何を・どのように子どもたちに伝えるのか、講師の一挙手一投足を間近に見られる最後の機会を大切に、学習しましょう。

【作成】株式会社無垢～ムク～（三原市久井町江木 1611-1）

【発行】平成 27 年 9 月 15 日